

令和 7 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

高品質豚肉の安定生産と持続可能な地域密着型経営

○氏名又は名称 有限会社 荻町高原総合農場（代表 工藤 厚憲）

○所 在 地 大分県竹田市

○出 品 財 経営（養豚）

○受 賞 理 由

・地域の概要

竹田市は大分県南西部の山間地域に位置し、豊かな自然と内陸性気候を活かした農業と観光が主要産業である。令和 5 年度の農業産出額は 238 億円、うち養豚が約 51 億円と約 2 割を占め、県内でも養豚が盛んな地域である。米を中心に多様な農畜産物が生産され、観光資源も豊富である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（有）荻町高原総合農場は、昭和 50 年に（株）丸福の生産部門として設立され、養豚団地事業に参画しながら一貫経営を拡大、現在は母豚約 2,900 頭を飼養し、年間約 6 万頭の肥育豚を出荷している。多産系種豚や人工授精技術の導入、疾病清浄化と衛生管理に積極的に取り組み、飼料用米活用のブランド豚や 6 次産業化も推進。後継者も育成され、持続的な発展が期待される。

・受賞者の特色

（１）高品質豚肉生産と環境負荷低減

広いスペースで飼育する等アニマルウェルフェアに配慮した肥育豚管理を実践している。自家生産や人工授精技術を活用し、高い繁殖成績を維持し、飼料用米を一定割合含む餌を給与したブランド豚肉「米の恵み」を生産、そのうちオレイン酸含有率 42% 以上のプレミアム基準を満たす豚の出荷比率が県平均の 1.5 倍に達し、販売先から高評価を得ている。堆肥処理施設やペレットマシンを整備し、良質堆肥を広域供給して環境負荷低減に貢献している。

（２）地域密着の雇用創出と農業連携

従業員 47 名の多くが地元出身で安定雇用に寄与し、自社のライスセンターで約 40ha の飼料用米を処理し、地域耕種農家との連携強化を図っている。学校給食への豚肉提供や地域施設への寄付等、多方面で地域貢献を継続している。

（３）女性の活躍

荻町高原総合農場では従業員の約 23% が女性であり、育児・介護休暇や休日確保、社宅等の条件を整備。また、従業員には毎月の研修会でスキル向上を支援し、勤続 10 年以上が半数を占め長期的に安心して働ける環境を提供している。

・普及性と今後の発展方向

ブランド豚肉「米の恵み」の生産を軸に、飼料用米確保や多産系豚の導入、防疫強化、環境保全を進め、地域連携や食育支援への取組は、持続的養豚業の普及モデルに成り得る。ICT 活用や省力化技術は今後の重要な方向性として期待される。